

# 洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2018年（平成30年度）1月～12月

（出荷単位：t・%：前年同期比）

2018年度（1—12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する12社の出荷実績は上期（1—6月）151トンの減を下期（7—12月）347トン増で挽回し年間39,180トン・前年比で196トン増の100.5%となり2015年から4年連続の出荷増となりました。

当同業会としては4年連続の出荷増となりましたが、ホームクリーニング分野は市場縮小傾向が継続しており、洗剤等の項目別出荷実績から課題も存在しております。

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。

## （全体コメント）

当同業会の顧客をマーケットセグメントから出荷概況を1. ホームクリーニング 2. テキスタイルリネン 3. おしぼり・施設ランドリーに分類し報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

項目 / 期・年度・前年比	2017年出荷実績						2018年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	75	88.2%	64	83.1%	139	85.8%	69	92.0%	60	93.8%	129	92.8%
ドライクリーニング用洗剤(フツ系)	26	92.9%	22	95.7%	48	94.1%	24	92.3%	21	95.5%	45	93.8%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	540	96.9%	459	95.4%	999	96.2%	504	93.3%	427	93.0%	931	93.2%
<b>ドライ合計</b>	<b>641</b>	<b>95.7%</b>	<b>545</b>	<b>93.8%</b>	<b>1,186</b>	<b>94.8%</b>	<b>597</b>	<b>93.1%</b>	<b>508</b>	<b>93.2%</b>	<b>1,105</b>	<b>93.2%</b>
<b>ランドリー用石鹼</b>	<b>142</b>	<b>89.9%</b>	<b>155</b>	<b>102.6%</b>	<b>297</b>	<b>96.1%</b>	<b>143</b>	<b>100.7%</b>	<b>133</b>	<b>85.8%</b>	<b>276</b>	<b>92.9%</b>
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,913	100.6%	9,738	100.2%	18,651	100.4%	8,636	96.9%	9,782	100.5%	18,418	98.8%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,391	105.5%	5,258	107.7%	9,649	106.7%	4,623	105.3%	5,752	109.4%	10,375	107.5%
<b>ランドリー用合成洗剤合計</b>	<b>13,304</b>	<b>102.2%</b>	<b>14,996</b>	<b>102.7%</b>	<b>28,300</b>	<b>102.5%</b>	<b>13,259</b>	<b>99.7%</b>	<b>15,534</b>	<b>103.6%</b>	<b>28,793</b>	<b>101.7%</b>
<b>ランドリー用ソフター合計</b>	<b>2,620</b>	<b>103.4%</b>	<b>3,032</b>	<b>104.0%</b>	<b>5,652</b>	<b>103.7%</b>	<b>2,727</b>	<b>104.1%</b>	<b>3,089</b>	<b>101.9%</b>	<b>5,816</b>	<b>102.9%</b>
(うち濃縮タイプ)	432	104.3%	451	100.2%	883	102.2%	412	95.4%	455	100.9%	867	98.2%
<b>ランドリー用粉末漂白剤</b>	<b>681</b>	<b>94.2%</b>	<b>707</b>	<b>91.2%</b>	<b>1,388</b>	<b>92.7%</b>	<b>593</b>	<b>87.1%</b>	<b>640</b>	<b>90.5%</b>	<b>1,233</b>	<b>88.8%</b>
<b>再販用合成洗剤合計</b>	<b>525</b>	<b>98.1%</b>	<b>679</b>	<b>94.4%</b>	<b>1,204</b>	<b>96.0%</b>	<b>477</b>	<b>90.9%</b>	<b>583</b>	<b>85.9%</b>	<b>1,060</b>	<b>88.0%</b>
(うちコンパクト)	214	96.4%	320	89.4%	534	92.1%	191	89.3%	295	92.2%	486	91.0%
<b>合成糊剤</b>	<b>473</b>	<b>96.1%</b>	<b>484</b>	<b>91.7%</b>	<b>957</b>	<b>93.8%</b>	<b>439</b>	<b>92.8%</b>	<b>458</b>	<b>94.6%</b>	<b>897</b>	<b>93.7%</b>
<b>年別総合計</b>	<b>18,386</b>	<b>101.4%</b>	<b>20,598</b>	<b>101.6%</b>	<b>38,984</b>	<b>101.5%</b>	<b>18,235</b>	<b>99.2%</b>	<b>20,945</b>	<b>101.7%</b>	<b>39,180</b>	<b>100.5%</b>

## 1. ホームクリーニング市場

ホームクリーニングは、2018年度1-12月度の総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、5,904円で前年比193円減の97.7%となりました。

2・3・4月は前年に比べCL代支出額が増額となり期待もされましたが、5月以降は減額に転じ市場規模の継続的減少傾向に歯止めが出来ていない状況でありました。今後も、2019年10月1日からの消費税及び地方消費税改正に伴う消費税率8%から10%への引き上げも注意を払う必要があると推察致します。この市場に於ける新たなビジネスとしてスニーカークリーニングの需要拡大も注目し期待しております。

## 2. テキスタイルリネンサプライ市場

### ー1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、都市圏を中心にホテルの施設数が増加しており、市場規模としても増加傾向にあると推察します。また、海外訪日客数および国内旅行者数の増加により、都市圏のみならず全国的にホテル稼働率が安定的な状況であったと考えております。

日本政府観光局（JNTO）調査報告の推定値によると2018年海外訪日客総数は31,191千人となり、国別では中国838万人・韓国754万人と近隣国の訪日客数の増加継続がホテル稼働率増加に大きく影響を与えたと推察いたします。この傾向は2020年東京開催オリンピック・パラリンピックに向かい増加傾向が継続すると推察いたします。このホテルリネンサプライ分野の課題は、生産量の増加による人手不足・洗浄水コントロール・物流等であり、今後ますます深刻化していくものと推定しております。

当同業会としては、ホテル宿泊者に対し、洗浄技術を生かしたリネンの『白さ』と『衛生』を訴求することが課題と捕らえており、この顧客課題の解決に参画することで、『リネン品の日本品質』が世界のトップレベルであることを示していくことに取り組んでまいります。

### －2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

①. 病院リネン関連（病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」）市場に大きく関連する病床数は、厚生労働省医療施設調査 2017 年 10 月末と 2018 年 3 月末報告の比較では 2017 年 10 月末現在で総病床数 165.55 万、病院病床数は 155.66 万で 2018 年 3 月末現在の総病床数 165.21 万・病院病床数は 155.45 万となっており総病床数は 0.34 万減・病院病床数では 0.21 万減と微減傾向が継続しております。ここ数年の当分野の傾向として、上記病床数減少による基準寝具の微減分を、入院患者の私物洗濯、医療作業従事者のユニホーム洗濯、1 日単位で入院患者にレンタルする入院セット等の需要の伸びでカバーしていると推察しております。

この分野は、高齢化社会の中で療養病床数不足が課題であります、大きな増加傾向が期待出来ない状況で、在宅医療の流れは継続すると推察致しております。

寝具類は医療事業機関等から衛生に対する要望が高まっており、当同業会としては、今後の対応として『洗浄剤』と『衛生関連剤』の提案・提供による課題解決に取り組んでまいります。

②. ダイアパーは病院寝具以上に減少し、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しております。入院患者に対し貸しオムツと使い捨て紙オムツの提供を展開するも、スーパー・ドラッグストアの安価品購入も減少傾向の大きな要因と推察致します。

### －3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野で景気停滞による需要の減少傾向が継続しております。リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品は他流通からの購入へ移行、更に他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい分野環境が長期化していると推察致します。特に、この分野は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していく事も近年重要になりつつあります。当同業会としては、リース品の耐久性も含め高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を実現したいと考えます。

## 3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

①. おしぼり分野は外食産業のコスト重視の傾向が根強く、安価な紙おしぼりへの移行が進み微減傾向が継続していると推察致します。数年前から適正価格への取組も展開し品質向上と衛生管理も充実させており、日本のおもてなし文化を訴えリースおしぼりの良さが再認識され、拡大に転じる事を期待しております。

②. 施設ランドリーはコインランドリーがここ数年は大幅な増加傾向で、最近では若干落ち着きを見せているようでは有りますが、洗濯時間を有効に活用できるカフェ・書店等のなどとの複合施設の増加で需要拡大が期待できると推察致します。これらの施設管理には機械類のメンテナンスと洗剤類の適正投入量が重要と考えております。一方で、公衆衛生を前提とするクリーニング業法との適合性を見極める時期でもあります。当同業会としても期待分野であり優良商品の提供に努め、更なる商品開発で家庭洗濯との差別性を実現したいと考えております。

## 4. 2018 年総計・タイプ別出荷状況報告

### －2) ドライ用洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2017 年出荷実績						2018 年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	75	88.2%	64	83.1%	139	85.8%	69	92.0%	60	93.8%	129	92.8%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	26	92.9%	22	95.7%	48	94.1%	24	92.3%	21	95.5%	45	93.8%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	540	96.9%	459	95.4%	999	96.2%	504	93.3%	427	93.0%	931	93.2%
<b>ドライ合計</b>	<b>641</b>	<b>95.7%</b>	<b>545</b>	<b>93.8%</b>	<b>1,186</b>	<b>94.8%</b>	<b>597</b>	<b>93.1%</b>	<b>508</b>	<b>93.2%</b>	<b>1,105</b>	<b>93.2%</b>

ドライクリーニング用洗剤は前年比で 81 トン減の 93.2% となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績でありました。長期的な縮小傾向が継続しております。

パーク系は、前年比で 10 トン減の 92.8%、減少傾向に歯止めが掛かからず、1992 年のピーク時 1,937 トンから 1,808 トン減となりパーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

フッソ系は、前年比で 3 トン減の 83.8% となり、1992 年のピーク時 772 トンから 727 トン減となり、ここ数年のトレンドは減少傾向であり、今後の出荷状況確認が必要でパーク同様に未来は厳しい状況となっております。

石油系は、前年比で68トン減の93.2%となり、石油系の減少傾向も継続すると推察しております。

『新しい取扱い表示記号』の施行による、洗濯方法を表示記号に応じたウエットクリーニングへ移行する広がりの可能性もあると推察します。

### －3) ランドリー石鹼

項目 / 期・年度・前年比	2017年 (上期)	前年比 (上期)	2017年 (下期)	前年比 (下期)	2017年 (年間)	前年比	2018年 (上期)	前年比 (上期)	2018年 (下期)	前年比 (下期)	2018年 (年間)	前年比
ランドリー用石鹼	142	89.9%	155	102.6%	297	96.1%	143	100.7%	133	85.8%	276	92.9%

ランドリー石鹼は前年比で21トン減の92.9%となり、減少傾向が継続しランドリー用合成洗剤への移行が長期的に進んだ結果と推察致します。当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定をお願いするケースもあると考えております。

### －4) ランドリー用合成洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2017年 (上期)	前年比 (上期)	2017年 (下期)	前年比 (下期)	2017年 (年間)	前年比	2018年 (上期)	前年比 (上期)	2018年 (下期)	前年比 (下期)	2018年 (年間)	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,913	100.6%	9,738	100.2%	18,651	100.4%	8,636	96.9%	9,782	100.5%	18,418	98.8%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,391	105.5%	5,258	107.7%	9,649	106.7%	4,623	105.3%	5,752	109.4%	10,375	107.5%
ランドリー用合成洗剤合計	13,304	102.2%	14,996	102.7%	28,300	102.5%	13,259	99.7%	15,534	103.6%	28,793	101.7%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、ここ数年は安定した分野でありましたが、昨年は前年比233トン減の98.8%と出荷減に転じました。1992年からの出荷報告では2004年の19,420トンピークに2017年では18,651トンと2番目に多い出荷量でありましたが、昨年は減少となりました。ホームクリーニングでのカッターシャツ・ワイシャツに使用する粉末洗剤の減少、液体洗剤への移行が進んだ結果である推察致します。しかしながら、2018年上期は277トン減の96.9%でありましたが、下期は44トン増の100.5%で前年出荷まで回復しており、今後の出荷状況を把握する必要があると考えております。

ランドリー用合成洗剤(液体)は、前年比726トン増の107.5%と1992年からの出荷報告以来、最大出荷量の年となり、今後も成長性の高い項目であると期待しております。

液体洗剤を使用するコインランドリー施設への出荷増とホテル・病院寝具分野で液体洗剤類の自動投入機対応も増加要因と推察しております。今後もトータルコストメリットや生産安定化に寄与できると判断される要素が増えていくと、粉末洗剤から液体洗剤への移行が進みテキスタイルリネンサプライ市場での需要が更に増加するものと推察します。

ランドリー用合成洗剤は2010年からの傾向で見ましても、テキスタイルリネンサプライ市場ホテル分野の安定的な維持により安定に推移していると推察致します。ホームクリーニング市場においても、ランドリー用合成洗剤の落ち込みはドライクリーニング用洗剤程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。また、コインランドリーは成長期から成熟期に向かっていると推察致します。

### －5) ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

項目 / 期・年度・前年比	2017年 (上期)	前年比 (上期)	2017年 (下期)	前年比 (下期)	2017年 (年間)	前年比	2018年 (上期)	前年比 (上期)	2018年 (下期)	前年比 (下期)	2018年 (年間)	前年比
ランドリー用ソフター合計	2,620	103.4%	3,032	104.0%	5,652	103.7%	2,727	104.1%	3,089	101.9%	5,816	102.9%
(うち濃縮タイプ)	432	104.3%	451	100.2%	883	102.2%	412	95.4%	455	100.9%	867	98.2%
ランドリー用粉末漂白剤	681	94.2%	707	91.2%	1,388	92.7%	593	87.1%	640	90.5%	1,233	88.8%
合成糊剤	473	96.1%	484	91.7%	957	93.8%	439	92.8%	458	94.6%	897	93.7%

①. ランドリー用ソフターは前年比164トン増の102.9%と市場拡大傾向となりました。メインの使用分野であるテキスタイルリネンサプライ市場が堅調に推移し、更にコインランドリー市場の需要拡大が下期に起きたと推察致します。

濃縮タイプについては安定的に推移しておりましたが、前年比16トン減の98.2%と出荷減に転じましたが濃縮タイプの利便性は受け入れられつつあると考えており一時的な出荷減と推察致します。今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

ここ数年は増加傾向で、濃縮タイプへの移行により実質的には拡大しているものと推定しております。当同業会の技術革新により、濃縮タイプ柔軟剤は、繊維に『柔軟性』・『帯電防止性』付与するだけでなく、

『抗菌性』、『平滑性』、『すべり性』を付与する機能剤として、今後も拡大していくものと期待しております。

②. ランドリー用粉末漂白剤は前年比 155 トン減の 88.8%となりました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤のユーザーであるホームクリーニング市場の縮小傾向と推察しております。

③. 合成糊剤は前年比トン 60 減の 93.7%となりました。シーツやカッターシャツ・ワイシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

#### － 6) 再販用合成洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2017年 (上期)	前年比 (上期)	2017年 (下期)	前年比 (下期)	2017年 (年間)	前年比	2018年 (上期)	前年比 (上期)	2018年 (下期)	前年比 (下期)	2018年 (年間)	前年比
<b>再販用合成洗剤合計</b>	<b>525</b>	<b>98.1%</b>	<b>679</b>	<b>94.4%</b>	<b>1,204</b>	<b>96.0%</b>	<b>477</b>	<b>90.9%</b>	<b>583</b>	<b>85.9%</b>	<b>1,060</b>	<b>88.0%</b>
(うちコンパクト)	214	96.4%	320	89.4%	534	92.1%	191	89.3%	295	92.2%	486	91.0%

再販用合成洗剤は、前年比 144 トン減の 88.0%となりました。長期の減少傾向に変わりはないと推察致します。1994 年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となり濃縮タイプも前年比 48 トン減の 91.0%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。

#### 5. まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 100.5%という結果でありました。ホームクリーニングの長期低迷、ホテルリネンは海外からの集客により好調であったと推察致します。テキスタイルリネンサプライ分野での需要が大きいメインのランドリー洗剤とソフターが出荷増となり、全体として出荷増という結果となりました。

特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向は深刻に捕らえております。当同業会 12 社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献致します。

以 上

